

[課程—2]

審査の結果の要旨

氏名 竹廣（貝谷）敏子

本研究は、本邦の褥瘡管理において、重要な課題として認識されている重症褥瘡を低減させるために必要となる高度褥瘡管理技術を、褥瘡管理の専門家である皮膚・排泄ケア認定看護師が実践することの効果を検証することを目的として実施した。技術は看護師が実施することを考慮して非侵襲的なアセスメントと低侵襲な介入技術をプロトコールとして体系化したもので、(1) エコーによるアセスメント、(2) 非接触型皮膚温度計を用いた非侵襲的なアセスメント技術と、低侵襲な介入技術として(3) デブリードマン、(4) ドレッシング材の選択、(5) 陰圧閉鎖療法、血流を積極的に促進させる補助的な方法として(6) 振動器の使用の6つの技術より構成され、下記の結果を得ている。

1. コントロール群では介入群に比較して褥瘡の重症化した人の割合は 1.9 倍であり、高度褥瘡管理技術を用いた介入は褥瘡の重症化予防に有意に関連していた（オッズ比=1.95、[95%信頼区間:1.150-3.301]、 $p=0.013$ ）。混合効果モデルを用いた解析の結果、群と時間の交互作用項が有意で、介入群では DESIGN-R の減少が促進されていた（ $p=0.012$ ）。

WOC 看護師が高度褥瘡管理技術を体系化したプロトコールを用いた褥瘡管理を実施することは、従来の方法に比較して褥瘡重症化予防と治癒が促進されることが示された。

2. 介入に伴って生じたと考えられる合併症の報告はなく、WOC 看護師は、医行為を安全に実施できることが示唆された。
3. 高度褥瘡管理技術を用いた管理と従来の管理方法に対する費用と効果を推計するために、褥瘡患者の褥瘡深達度予後をマルコフモデルによって構築し、1年間の分析期間とするシミュレーションを実施した。高度褥瘡管理技術を用いた WOC 看護師による介入は、従来の管理方法に比較して効果が高く、費用は安い ICER は優位（dominant）な結果であり、効率性が高かった。特に深達度が重症のモデルでは、1年間の期待費用が介入群で 140,780 円に対して、コントロール群では 273,184 円と約 2 倍高く、QALY は介入群が 0.07QALY 高くなり、深達度が高い重症褥瘡モデルでは費用と効果の差が大きくなっていた。

これまでは DTI やクリティカルコロナイゼーションは肉眼的な方法でしかアセスメントができず、介入が遅れ重症化や治癒遅延していた。今回導入した非侵襲的なアセスメントと低侵襲な介入技術により WOC 看護師が適時的に介入できることは褥瘡の重症化を予防し、

治癒を促進できる可能性が示唆され、重症褥瘡を軽減させる新しい看護技術として価値のあるものである。

また、本研究では WOC 看護師が医行為を実施するスキルミックスを導入した本邦で初めての研究であり、効率性が高いことが示された。WOC 看護師による医行為の実施は安全であり、かつ効果的であったことを提示できたことは、今後の日本の医療体制を考えるうえで、大きなインパクトを与えるものであると考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。